

学校全体で取り組む情報モラル指導の要点

ICT活用教育の推進と情報モラル

学校へのICT（Information and Communication Technology）の導入の目的は、従来の教育方法や教材・教具では実現が難しかった教育目標を達成すること、また、児童生徒自身の主体的な学習活動や、発展的・創造的な学習活動を実現することにあります。

特に、これからの情報社会に備えて、ICTを問題解決に的確に活用し、情報を収集・編集・判断・発信できるような児童生徒を育てていくには、あらゆる学習の場面で、児童生徒自身にICTを活用させる機会を与えていくことが望まれます。

しかし、新しい道具を児童生徒に使わせる際には、必ず、安全指導や適切な使い方の指導を行うように、ICTの活用においても、それらの指導が不可欠です。情報モラル教育は、ICT活用を効果的に活かすために不可欠の教育と考えていいでしょう。そのためには、児童生徒の実態を把握するとともに、どのような場面で、どんな学習活動をさせるのか、その中でICTをどのように使わせるのか、また、そこで押さえるべき情報モラルの内容は何か、などのマップづくりが必要であり、学級の中で、学年で、学校全体で、継続的にしっかりと取り組んでいくという先生方の意識が大切です。

日常のモラルがベース

社会生活や学校生活の中には様々なルールやマナーがあります。みんなが使う公共物を大切にしよう、言葉遣いをていねいにしよう、他人のいやがることや迷惑になる行動はしないようにしよう、思いやりのある言葉を使おう、あいさつをしっかりとし、礼儀正しい態度を心がけよう、決まりを守って遊ぼうといった指導項目は、生徒指導や道徳の時間、学級活動で指導する内容です。

インターネットの世界も社会の一部ですので、インターネットを利用する際にも、日常生活におけるモラルが大切であることは当然です。チャットやブログに人の悪口を書き込む、迷惑メールやコンピュータウィルスをまき散らす、ポルノや残虐な画像をサイトに掲載するといった行為がマスコミなどで報道されていますが、実はこれらは、インターネットの利用の仕方の問題ではなく、「人としてのモラルに反する行為」であるということなのです。したがって、情報モラルの考え方や態度の育成は、パソコンを使うようになってからはじめる対症療法的なものではなく、日常的な心の教育や生徒指導のなかでも、少し時間をさいて行わなければなりません。児童生徒に正しいメッセージを送り続けることで、少しずつ力がついてくるのです。まずは、児童生徒の実態をつかんでください。その上で、学校で必要になる学習内容を絞り、人間として社会で生きる正しい姿勢や態度を育成するためにきわめて大切な、基本的な指導であるという認識の下に、学校をあげて取り組んでいってください。

携帯電話も含まれる

町の中で悪口を書いた紙をばらまくような行為は、人の目も気になりますので、普通は簡単にはできません。しかし、インターネット上では、人知れず悪意を持って情報を流したり、情報を操作したりすることもできてしまいます。匿名性が高いことを理由に規範意識が薄らいだり、インターネットだから特別に許されているかのような錯覚に陥ったりしておこすモラル違反の行為は問題です。インターネットの世界は公共の場であることや、インターネットの向こうには人がいることを意識しなくてはなりません。

日常生活では普通なら思いとどまる行為を、軽い気持ちで行ってしまいがちであるため、情報モラルは特別に取り上げて指導することが必要なのです。